

第九たいむず



No.44 2008.4.24

通刊787 担当 高三



ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX: 027-323-0233 (団長渡辺) 携帯電話: 090-1828-8052 (事務局長小野里)

♪先週の練習内容について

先週の衣装合わせはいかがでしたでしょうか? いろいろな方の衣装を参考にさせていただいて、本番までにご準備ください。女声の方は原則、足首が隠れるくらいの長さの丈でスカートをご用意ください。男声は、昨年の中国公演時に着用した黄色のTシャツにはこだわらず、それらしい衣装をご用意ください。

★★先週の練習時の注意事項★★

とにかく、それぞれの曲について、電信柱にならぬよう音楽に乗って歌いましょう! その歌の意味を理解して自分の役割を理解し、その役になりきりましょう! トラヴィアータではソロ役の以外の人もその他大勢の人々ではなく、女声は貴婦人であり、男声は男爵・公爵と言う地位のある方ばかりです。恥ずかしそうに立っているのではなく堂々と貴婦人と紳士を演じましょう♪



♪受付より

- ☆チケット メイコンサートに出演する方でチケットを買っていない方がいらっしやいましたら、早めに8,000円で12枚入りの封筒を交換してください(すぐに枚数を確認してください。)。1枚1,000円で販売してください。「おかわり」のチケットは1枚500円で受付にて販売します。後日精算なし。
- ☆打ち上げ メイコンサートの終演後、17時30分頃(コンサートの時間により多少変わります)から、3,500円で飲み放題 高崎駅東口のAIAIにて。詳しくは受付の申込書をご覧ください。
- ☆ビデオ・DVD メイコンサートのビデオとDVDを作ります。ご希望の方はそれぞれの申込用紙にお名前を書いてください。商品は6月の練習日にお金と引き換えにお渡しします。
- ☆団員登録 受付に申し込み用紙があります。
- ☆チラシ入れ要員募集 メイコンサートや団員募集のチラシ入れ(各種演奏会のパンフレットに挟み込む)のお手伝いをしていただける方を募集しています。お手伝い可能な方がいらっしやいましたら、運営委員までお声をお掛けください。

♪メイコンサートについて

- ☆集合時間 高崎市文化会館午前9時 着替えて10時から舞台にて発声練習開始。
駐車場は指示します。女声:大ホール裏手の楽屋にて着替え 男声:地下会議室にて着替え
*貴重品の管理は各自で行ってください。☆ゴミは持ち帰りです。
- ☆お昼ご飯 おにぎり2個と飲み物をご用意します。足りない方は持参してください。
- ☆衣装について

♪第1ステージ「イーゴリ公」

女声 ・ベール、ベールを止めるヘアバンド、Tシャツ、パンツ、サンダル
男声 ・Tシャツ、黒以外のズボン、黒以外の靴、サッシュベルト(団で用意します)

♪第3ステージ「椿姫」

女声 ・ロングドレスもしくは黒のロングスカート・色ブラウス、それら合わせたサクセサリー・靴
男声 ・第九演奏会の衣装 + ロングストール(色は自由)

♪今後の練習日程(毎週木曜日、5月29日・12月25日だけお休み)

4月24日、5月1・8・15・22日

※5月15日が合唱練習としては最終週。5月22日は総会 & ミニコンサート

※6月5日以降12月18日まで毎週木曜日練習。

♪コンサート情報

合唱団JOY 第6回定期演奏会～皆様に愛されて12年～

6月22日(日)開場12:45 開演13:30 高崎市文化会館大ホール 入場料 1,000円

指揮:赤羽 洋子 ピアノ:ユリヤ・レヴ 室内楽:カメラータ ジオン

♪コンサートレポート

【テノール 高三】

岡崎混声合唱団・岡崎高校コーラス部 第29回定期演奏会 愛知県芸術劇場コンサートホール

名前の通り、愛知県にある岡崎高校コーラス部と、そのOB・OGが中心となってできた岡崎混声合唱団の合同演奏会です。両団共に40人ほどの人数で、合同演奏となると80人。なかなかの大合唱です。また、岡崎高校コーラス部は世界合唱大会(主催:国際文化財団 Interkultur Foundation、ムジカ・ムンディ世界合唱競演大会連合会)にも開催開始の2000年から毎回出場し、毎回金賞を受賞している日本の中では指折りの合唱団です。

前半は各団の演奏。岡崎混声はジョスカン・デ・プレ作品集を演奏し、ルネッサンス期の宗教曲や世俗曲を曲の雰囲気を生かすようにうまく歌っていました。個人的には、宗教曲のポリフォニーがとても美しく、印象に残りました。岡崎高校は「八重山・宮古の三つの島唄」で、中の1曲はNHK合唱コンクールでも歌われたものでした。コンクールでは歌えなかった下級生も加わったようで、歌い慣れていない彼らが「頑張っています！」的に表現しているところが何とも若者らしく、熱くさせてくれました。複雑な手拍子が揃っていなかったのは、まあご愛嬌ですかね(笑)。

後半2ステージは合同演奏。まず、「While there is life, there is hope(生きている限り希望はある)」と題して、「Crime Every Mountain」、「Amazing grace」など私たちに馴染み深く、命の大切さや希望・励ましを題材とした曲を取り上げました。6人演奏もあれば80人演奏もあり、人数と表現を大きく変化させた構成が楽しませてくれました。最後のステージは信長貴富先生の委嘱作品で「廃墟から」。原爆詩、ガダルカナル戦詩集、沖縄の神歌を基に作られた3曲構成のもので、信長先生の評価にある「精神的・技術的に極限を要求するこの作品を理想的な形に高めてくれた」との言葉通り、「人間が発し得る極大的臨界」と感じられる迫力と祈りの音楽が絶え間無く聴衆に叩き込まれました。もう絶句、です。考えてみれば、信長先生の作品をこんな大合唱で聴くのも初めてで、新鮮な印象でもありました。会場の信長先生に「ブラボー！」と言わしめる何とも高質な演奏。来年、自分が所属する合唱団葡萄は先生の作品を委嘱する予定なので、同じくらいの感動を与えられるように頑張りたいと思いました。

♪先週のたいむずの記事についてお詫び

先週のタイムズの記事で中国公演と名コンダクターのいる組織①の作者のお名前が誤っておりました。テノール酒井邦昭さんでした。大変失礼いたしましたこと、お詫び申し上げます。また、続きは次週のたいむずに掲載させていただきますので、お楽しみにしてください。m(_)_m

